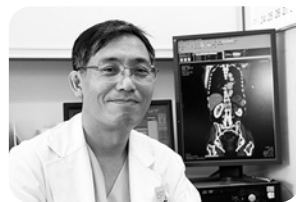


★ここが知りたい!★ 米沢市立病院紹介

⑬

☆外科(内視鏡外科)編☆

外科(内視鏡外科)でカメラ(内視鏡)を使って行う鏡視下手術について、外科長兼内視鏡外科長の佐藤佳宏医師(写真：右)にお話を聞いてみましょう。



Q 鏡視下手術とはどのような手術ですか？

A 通常、これまでの手術は皮膚をメスで大きく切り、胸やお腹の中を直接目で見て手で触って行っていました。そのため、術後の皮膚には大きな傷が残りました。鏡視下手術は、皮膚に数個の小さな穴を開け、カメラ(内視鏡)や手術器械(電気メスや臓器をつかむ鉗子など)を入れてモニターに映して行うので、小さな傷で済みます。メリットは、傷が小さいため術後の痛みが少ないこと、低侵襲^{ていしんしゅう}といって体への負担が少なく回復が早いこと、入院期間が短いため早く普通の生活や仕事に戻ることができることなどです。デメリットは、カメラや手術器械を操作して行うため、通常よりも少し時間がかかることなどです。外科医にとっては多少の熟練が必要となりますが、患者さんにとってはメスで大きく切るより、負担の少ない手術となっています。

Q 外科(内視鏡外科)で行っている、鏡視下手術(胸腔鏡下手術・腹腔鏡下手術)について教えてください。

A 胸腔鏡下手術では、腫瘍または肺の部分切除を行っています。また、腹腔鏡下手術では、胃・小腸・大腸・直腸・胆のう・肝臓(部分切除)・脾臓の病気について行っています。また、難易度が高いとされる鼠径ヘルニア^{そけい}の手術も可能です。今後は、肝臓・脾臓・胆道の高難度手術に対しても鏡視下手術を応用していきたいと考えています。

◆問合せ／市立病院総務課経営企画室 ☎22-2450 ◆ホームページ／ <http://yonezawa-city-hospital.jp/>